

お知らせ

- 3月の定例活動日；3月22日（日）9時30分清和県民の森第2駐車場集合、主な活動は植生・食害調査、巨木林調査、シイタケ保護柵設置・補強など。
- 森林研究所研究発表会；3月3日（火）13：10～16：40、於山武市さんぶの森文化ホール。参加希望者は0475-88-0505 森林研究所に問合せください。
- 里山活動発表会；3月8日（日）10時～15時、於千葉県農政センター、参加費《昼食》：500円、主催：ちば里山センター、昼食は温かいご馳走です。参加希望者は上記事務局アドレス宛てメール又は電話下さい。
- ちば里山新聞；第18号が発行されました。「ちば里山センター」ホームページにアクセスして閲覧下さい。インターネット閲覧できない方には郵送します。
- 誤記訂正；67号誌の記事中新入会の宗正臣・宗律子夫妻の氏名に誤記がありました。訂正してお詫びします。

活動の記録

2月15日（日） 曇 参加メンバー後列左から久我・伊藤・大賀・森・鶴沢・村野・小又・福田・坂本・甲斐・高橋・真鍋・前列左から福島・宗・高橋（洋）・久我（則）・宗（律）・松本・福田（美）・石井の総勢20名

午前中は清和県民の森管理事務所下の会議室で今年度の活動発表会、短い時間で報告と討議を行い、島に移動して昼食の後、シイタケ植菌、巨木林調査など忙しい、充実の一日でした。



久々の20名参加

○H20年度活動発表会；時間の関係でテーマを「コナラ林更新」「動物調査と食害調査」「相対照度調査」「栽培キノコ」「巨木林における下層木の成長と消長」に絞り、資料に従って発表と討議を行った。

コナラ林更新調査（伊藤）5年間の萌芽更新状況と実生更新状況が報告された。討議の要点は（1）高樹齢化のため、今後豊英島で萌芽更新は期待しない。（2）実生の成長は遅いが根は確実に成長しているので、現区画については、今後の成長を見守り、調査継続する1回/年。（3）新たなコナラ林区画の設置については、更新方法、照度改善のため伐採面積の拡大、土の肥沃化などについて、十分な検討が必要である。

食害調査&ニホンジカ調査（福島）3調査区画の食害調査結果データに従い種別の摂食状況が明らかにされた。問題点として（1）植物の種ごと食害の程度は評価できない。（2）調査区が少なく島全体の評価が困難。（3）調査者及び調査時間の確保が困難で、この方法の単純な継続には問題がある。（4）ニホンジカ調査について、視認の実績は多くないが、フンや食痕・ツノトギあとは多い。討議の最大の論点は「森本来の住人である動物の食糧を食害対策で奪うことの是非」。植生保護や栽培シイタケ保護の必要もあり、どう「共生」するか悩み多く、今後の重要な検討課題という結論に落ち着く。今後の食害調査について（1）季節の違いを明らかにするよう冬（早春）と夏の2回以上必要。（2）保護柵内外の比較による長期的な植生の変化を追跡する等。

照度調査（福島）1月の調査結果が報告され、次の点が議論された。（1）冬季調査は必要か？落葉期の照度の影響を受ける植物もあり、冬・夏とも調査が必要。（2）巨木林調査区の調査密度；1㌦間隔との意見もあったが計器や時間の制約もあり2㌦間隔を検討する。（3）コナラ更新林やシイタケホダ場等も測定が必要。

栽培キノコ（久我）植菌・収穫などの実績報告に続き今後の収穫周期の見直し、保護柵補強など話合った。

巨木林における下層木の成長と消長（大賀先生）12月調査開始後の中間発表に続き、先生の渡海神社寺林における23年間の研究記録「極相林の動的安定の中身」がグラフによって紹介された。「長期の調査には辛抱強さが求められるが、森の変遷の追跡には夢とロマンがある。巨木林調査区の下層部に生育する全樹木の振舞い（生育個体の成長と種の交代）調査を豊英島で開始した。初期の調査を定着させれば、若い皆さんが引き継いでやって下さると期待している。今季の調査も出葉を待って種の同定が必要、来季以降毎冬（11～2月）の調査（番号札着脱、樹高と直径測定）がある。皆さんの協力をお願いしたい。」とのお話でした。

島に移動し昼食後作業開始—

○巨木林下層木の成長調査；大賀先生と福島さんは巨木林調査区に入り前回未調査分を測定しましたが、全部終わらず次回に繰り越しました。



穿孔する人



駒を詰める人・木槌で打込む人



働き終えて満ち足りた顔

○シイタケ植菌；1月に玉切りしたコナラ及びシイのホダ木85本に森産業の「にく丸」菌駒2000本を植菌した。発電機と穿孔機の快音立てながら穿孔する人、駒を穴に詰める人、木槌で駒を打ち込む人、ホダ木を運んで積上げる人の呼吸ピツタリ、人海作戦1時間余りで作業を終えました。数は力！

○シイタケ収穫・秤量；シイタケ班は収穫・秤量。ネットに近いホダ木はサルがネット外から手を入れて食べ、相当量の被害が出ているが、サルの食べ残しが4キロ近くあり、お土産として持ち帰り、美味しく頂いた。

○シイタケ保護柵補強；ネットに近いホダ木のシイタケは全滅に近いので、巨木林の07年植菌S0703保護柵の応急処置として補修・補強した。

*サルがシイタケを食べる姿を撮影しようとセンサーカメラを設置しています。シイタケ収穫の時サルの代わりにセンサーに感知されないよう注意下さい。



保護柵の補強

豊英島に小さい春

ほこら山裏の急斜面にスハマソウが2輪、厚い落ち葉の下から顔を覗かせていました。シュンランの蕾が膨らみ始め、開花一輪見つけました。森のあちこちにオニシバリが咲き、カブトムシの床では太ったカブトムシの幼虫が春を待っていました。



北斜面落葉の陰にスハマソウ



春を告げるオニシバリ



春を待つカブトムシ幼虫